

2010 (平成 22) 年度後期 DUO リーグ会議議事録

【日 時】 2010 (平成 22) 年 12 月 23 日 (木) 17:00~20:00

【場 所】 筑波大学附属高校会議室

【出 席】 (代表者名。下線は遅刻)

都小石川 (長山)、昭和一 (永井)、三菱養和 (杉尾)、京華 (小金丸)、都向丘 (末吉)、筑波大附 (中塚)、学習院 (玉生)、豊南 (林)、本郷 (岩野)、城西 (嶋野)、豊島学院 (早川)、郁文館 (井上)、駒込学園 (宮坂)、巢鴨 (山中)、立教池袋 (橋本欠席につき獨協が代理)、獨協 (本郷)、都豊島 (江口)、淑徳巢鴨 (石原)、都竹早 (蓑田)、日大豊山 (亀井)、都文京 (梶山)、都足立 (安藤)、都江北 (玉山)、足立学園 (伊藤)、都荒川商 (蓑輪)、文京区中学生選抜 (丸山)、FC 西巢鴨 03 (岸弘)

【オブザーバー：選手】

稲田・飯星・気賀 (筑波大附)、井本・村上 (豊南)、阿部 (文中選)、飯塚 (郁文館)、

【オブザーバー：一般】

池上 (豊南)、松本 (日大豊山)、遠藤 (足立学園)、武藤 (文京区中学生選抜)、藤原 (東京リゾート&スポーツ専門学校)、土谷 (スキンプロジェクト)、岸卓 (事務局)

【議事録作成】 岸 (事務局) & チェアマン確認

<DUO リーグ会議ダイジェスト (決定事項を中心に)>

○今後のスケジュール

- 1) 2部チャンピオンシップ・順位決定戦：当事者同士で日程と方法を決定。2月26日までに実施。
- 2) 基礎調査兼加盟票：2月上旬を目途に送信。
- 3) リーグ編成：2月27日の会議で提示。日程調整はその後。
- 4) プログラム原稿：3月19日締め切り。
- 5) 2010年度前期開幕戦：書き物としては4月1日。実質3月末から行ってよい。
- 6) 審判講習会&交流戦：3月13日 (交流戦については技術部で企画)
 - 4級審判の資格を持っていて更新の手続きをまだ取っていない方
 - 1月20日まで更新手続きの期限を延長。2月に更新の講習会が設定されているのでキックオフサイトより申し込むこと。
- 7) DUO リーグ・イベントデー：カレンダーづくり&アウォーズ&DUO 会議
 - 2月27日 アウォーズ 16:00~ DUO リーグ会議 17:00~

○2011年度のシーズンとリーグ構造について

- ・2011年度については従来通り2シーズン制で行う。
 - 2012年度以降、1シーズン制の方が良いという意見があれば具体的な形で提案する。
- ・後期リーグ最終日をいつにするか、後期末会議をいつ行うかについては次回会議まで保留。
- ・1部リーグ8チーム×2ブロックで実施。
- ・2010年度後期2部優勝チーム (筑波大附、都荒川商業、日大豊山) は3チームとも自動昇格2部リーグ2位チーム同士 (立教、巢鴨、京華) で順位決定戦を行う。
- ・2部チャンピオンシップ、順位決定戦の日程・試合形式・審判については当事者で決定。2月26日までに実施し結果は速やかにメーリングリストに流す。
- ・都立豊島はEリーグから地区トップリーグに昇格
- ・上位リーグからDUOリーグに降格するのは学習院、豊島学院、江北の3チーム

○各チーム一節主催について

- ・各チーム一節主催することを再確認する。
主催するとは、グラウンドを確保し、当日運営し、結果を報告すること。
それぞれ別のクラブが行った場合は、当事者間で主催クラブを決定する。
- ・モルテンボールについては、外部会場でグラウンド代を多く支払ったクラブと、実質的にグラウンドを多く貸したクラブに提供する。
- ・外部会場でグラウンド代が発生した時は、別途そのことが分かるよう、報告書を作りなおす。

○経理部

加盟費・参加費をまだ支払っていないクラブは早急に支払うこと。
各部署で支出があれば林先生に報告。
事務局費として、通常業務を時給 1000 円×週 3 時間で考え、会議やイベントでの人件費も含め、半期で約 100,000 円を捻出する。

○広報部

プログラム内の「一言欄」を「前々所属欄」に変更する。

○スキンプロジェクト推進部

カレンダーは、サンプルを作った上でもう 1 回意見をいただき、最終的に 2 月 27 日に臨む。
捨てる靴やボールを取っておいてもらいたい。岸事務局長が回収に回る。

【議 題】

議題 I . 2010 年度後期 DUO リーグについて

1. 経過および結果報告

0) 地区トップリーグ (都江北 A&玉生運営委員長)

玉生：結果表をご覧ください。順位決定戦は各リーグ 1 位と 2 位のところだけやっています。

T リーグとは来年度から完全に繋がることになっていますが、本年度も、地区トップリーグからは 1 枠もらっています。開成高校が 3 位以内に入り、高体連の成績でも権利を得たのですが、リーグ戦の結果を優先するというので、開成高校は地区トップリーグより T リーグに参入することになりました。各リーグ下位から 4 チームが各地区リーグへ降格し、各地区からは 1 チームずつ昇格します。

来年度から T リーグとつながるので、T3 への高体連枠からの参入はなくなります。したがって、T3 から地区トップリーグへ 3 チーム落ち、地区トップリーグから 3 チームが T3 へ参入します。

B チームの T リーグ参入については、2013 年度以降に実施することが T リーグの総会で決まりました。地区トップリーグに B チームが所属しているのは関東一、駒沢、かえつ、実践、駒場、東亜です。T リーグは、まずはリーグ編成をどうするかを整理したいということで、2012 年度は T1 を 10 チームのホーム&アウェーにして、4 月上旬～10 月上旬で行いたいということで進んでいます。T2 を 20 チーム、T3 を 16 チームでリーグを構成する。この形をきちんと作った上で、2013 年度から B チームも上げようじゃないかという方向で動いています。

T リーグに合わせて地区トップリーグも動いていかねばならない状況になっています。来年度からは E リーグがなくなるので、DUO リーグ 1 部にもその波が来てしまう可能性があると思います。

B チームが T に上がっていけない 1 つの大きな問題として、退場者が出てしまった時の試合消化問題があります。例えば、高体連の大会で退場してしまった後に T リーグがあると、そこで消化できるんです。逆に T3 にいる B チームの子が T3 で退場してしまった時に、次の高体連の大会で 1 試合出場停止を消化できるのかという問題が出てきます。そのような問題が解決しないと B チーム

の T リーグ参入は認められないという意見も T リーグで出ています。問題が出てくるのは当然のこととして、さっさとやってもらいたいと思っている方もいますが、そう思わない人もいるので難しい状況です。

中塚：この表には A、B 書いていないけど。

玉生：チーム名の問題もこれからは A だか B だかわかるようにしていかなければいけません。

中塚：DUO リーグでも同じ問題があって、上のリーグに所属している学校の B チームが下のリーグでは B、C と明記しないと、わからなくなりますよね。

玉生：ちなみに今回 T3 から地区トップリーグに落ちてくる 3 チームは、ゼルビア、城北、創価です。

T3 も地区トップも同じくらいのレベルなのじゃないかと思える結果ですね。

中塚：いま指摘があった「退場者の出場停止は直近の試合で消化しなければならない」という件ですが、ルール自体に問題があるかもしれません。ルール化したときの JFA 規律・フェアプレー委員長は松本光弘先生で、私も当時、委員会メンバーだったので議論に加わっていました。その立場からすると、当初考えていたのとは違う形で運用されていると感じています。異なるレベルの試合で出場停止の試合が消化されるという考え方は、当初想定していたのは違うもので、ルールが一人歩きするとこんな風になってしまうんだと感じています。

補足) 1 試合 (程度) の出場停止は同一競技会 (同一レベルの競技会) 内で消化する。2 試合以上の出場停止、つまり「えげつないことをしてしまった」者については、サッカー界全体で反省を促すべく、「直近の試合にも出場できないようにしよう」というのがそもそもの発端。リーグ戦の出場停止が高体連の試合がはさまったおかげでなくなるというのはそもそもおかしい。1998 年 W 杯フランス大会でアルゼンチンのオルテガ選手が退場処分を受けたが、その出場停止は「直近の試合」ではなく、「同一レベルの競技会」ということで 2001 年の南米選手権の 1 試合目で消化したことを引き合いに出して、この趣旨を説明した記憶があります (以上、中塚からの補足)。

1) E リーグ (都豊島・学習院・豊島学院 A)

玉生：星取表をご覧ください。まだ消化されていない試合が 2 試合あります。2 地区がらみのところでは全ての試合が終わっているので、残りの 2 試合がどのような結果になっても DUO との昇降格は変わりません。都立豊島は E リーグから地区トップリーグに昇格します。おめでとうございます。学習院と豊島学院が E リーグから DUO の 1 部に落ちてきます。E リーグはこれではなくなりますので、1 位 2 位が地区トップリーグに上がり、3 位以下は各リーグに戻るようになります。地区トップリーグに参入していた江北が下位 4 チームに入ってしまったので、DUO リーグに降格するのは学習院、豊島学院、江北の 3 チームです。

2) 1 部リーグ (1 部リーグ責任者：宮坂)

宮坂：1 部リーグは今日で全試合を終えることができました。運営面では問題ありませんでした。

長山：リーグ選抜については、各チームから 2~3 名ずつ出していただきました。都立足立高校は都合がつかせませんが、それ以外のチームからは送っていただき計 13 名が集まりました。

3) 2 部リーグ (D 責任者・本郷/U 責任者・江口/O 責任者・小金丸)

2 部 D リーグ

本郷：メーリングリストで総括を流しました。優勝は筑波大附属高校でした。退場者が 1 名出ています。豊南の村上君で、理由は主審への侮辱的な発言です。1 試合の出場停止と規律部早川先生からの嚴重注意、DUO 会議に出席してもらい DUO の理念を勉強することを課しています。D リーグの交流戦を 10 月 23 日に行いました。コンセプトは交流ということで、コミュニケーションを取りながらスタッフを交えて 4 チームで 4 試合行っています。総括として、途中新人戦があったこと、外部のグラウンドの予約が日程会議の時点では分からなかったことから、開幕前と新人戦組み合わせ

決定後の2回、リーグ会議を行いました。主催クラブが筑波大附中心になってしまいましたので、各クラブ最低1試合主催というルールを改めて確認できればと思います。

規律部より退場者の扱いに関して

早川：「主審に対する暴言」ということで、サッカー協会が出している懲罰規定でいけば2試合出場停止という状況です。しかし、主審や該当チームに確認したところ、イエローカードを提示する時に主審がもたついてしまっていたことが一つの原因であり、避けられたレッドカードであったという意見が出ていました。主審の教育の場でもあるということ、懲罰規定に関しても教育的な配慮をし、今回は「1試合出場停止と嚴重注意、そしてDUO会議に出席し、DUOリーグは自分たちで作っているリーグであるということ」を理解してもらおうことにしました。

遠藤：この会議に村上君を出席させる理由がDUOの理念を勉強してもらおうということですが、DUOリーグの理念とレッドカードの判定はどのような関係があるのでしょうか。このようなことは前にも例があったんですか？今後もレッドカードについてはこのような対応をされるんですか？

早川：DUOリーグは参加するだけでなくみんなで運営しているんだという気持ちをもってもらえれば、そのような暴言はしなくなるだろうと考えました。迂闊なラフプレーとかだったら違うのかなという気がしますが、今回は主審に対する侮辱的な発言だったのでこのような判断をしました。昨年度の後期リーグで一発退場が出たときも「相手に対する暴力」ということで、相手がいてくれるから試合が出来ることをわかってもらうために会議へ出席してもらっています。

中塚：そのような報告を受けたので、チェアマンとしても同意した次第です。

遠藤：会議に出てもらうのは針のむしろに座らせるような気がして、個人的にはあまり好きではありません。Tリーグなどで同じような裁定を聞いたことがなかったので違和感を覚えました。

中塚：毎回DUO会議の後に高校生オブザーバーからコメントをもらっていて感じるのですが、この会議に出ることで、高校生がいろいろ学べるんですよね。ですから、今回の規律部からの提案を採用しました。

2部Uリーグ

江口：グラウンドの確保が非常に難しかったと思います。他には運営上の問題は特にありません。

嶋野：交流戦については私自身が用事で遅れてしまったので、その分を本郷先生がやってくさいました。交流がメインということでしたが、知り合いにはなれたのかなと思います。

2部Oリーグ

小金丸：最初の日程調整会議のときに、自分の学校にグラウンドがない学校が多かったこともあり、他のリーグにグラウンドを借りる形になってしまいました。豊島高校では特に多くやらせていただきました。DUOリーグでは参加チームは1節主催するというのが明記されているので、それは必ず守っていただけるような形を取っていかねばいけないと思います。

亀井：交流戦については技術部が主導するということを忘れていて、声かけが遅れてしまいました。今後は気をつけたいと思います。集まったメンバーは文京区中学生選抜から2人、淑徳巣鴨から2人、残りは筑波大附グラウンドで午前中練習試合をしていた日大豊山から出しました。

各チーム一節主催するという点に関して

中塚：小金丸さんからあった「一節確保する」ということはものすごく大切なことです。今年度のスローガンは「歴史から学ぼう」ですが、DUOリーグスタート前の構想段階から、リーグ戦の趣旨を理解していることと、グラウンドを一節だけ確保できることは参加資格条件に入れています。

小金丸：それがなあなあになっていると思います。京華も、グラウンドは持っていますが他のクラブとの兼ね合いで、公式戦以外は自分たちが練習に使うこともままならない状況です。本来ならリーグ

単位で解決しなければいけない問題なので、一節確保できないクラブには勝点でペナルティーを与えるようなことも考えていく必要があるのかなと思います。

岸弘：何をもちて主催となるのでしょうか？ 外部会場の場合は、お金を払ったクラブが主催だと思っていたのですが、確保したクラブとお金を払ったクラブが別々の場合、どちらが主催になるのでしょうか？ 学校で行う場合も、試合を行うクラブが主催なのか、グラウンドを提供しているクラブが主催なのかははっきりしていないように思います。

中塚：確かに曖昧になっている部分はあると思います。具体的にはどうしたらよろしいでしょうか。会場を取る努力をしたクラブが主催だけれども、会場費の1000円はグラウンド代を払ったクラブに支払うというのだとわかりにくいですか？

岸弘：各クラブが理解していればそれで良いと思います。

中塚：**使用料が発生した時は、そのことがわかるように、報告に載せてもらうようにしましょう。**

岸卓：記録用紙もそれに合わせてどこがいくら払ったか作り直してはいかがでしょうか。

中塚：そうしましょう

岸卓：会場費はリーグとして支払いますか？

中塚：全部払うのは無理です。

岸卓：お金では払えないけれど、モルテンのボールを、会場費を多く支払っているクラブから順に渡すのはいかがでしょうか？

本郷：これまでモルテンボールは、グラウンドを持っているクラブも含め、主催数の多いクラブに渡していましたが、僕の意見として、外部のグラウンドで会場費を多く払っているクラブに配布するのがいいと思います。

中塚：要するに、会場使用料をリーグとして支払えないかわりとして物品で補助しようということですよ。いかがでしょうか？

岸弘：無料の学校のグラウンドを努力して借りた場合、主催は借りた方ですか、貸した方ですか？

中塚：借りた方にしてあげないと、グラウンドを持っていないところは主催できないですよ。

嶋野：例えば、筑波のグラウンドで城西と小石川が試合を行う場合は、先に中塚先生に電話した方が主催になるということですか？

中塚：それはお互いで相談してください。

江口：一節分主催するという事は、1試合ではなく、8チームのリーグだったら4試合ですよ。

中塚：そうです。ただし、これを厳密に尽きつめていくと、グラウンドを持っていないクラブはチームを出せなくなってしまうので、グラウンドを持っているクラブが、グラウンドは地域の財産であると考え、多めに試合を行うというのは当然だと思いますが。

亀井：会場提供クラブでなく、会場を借りた主催クラブが当日運営と報告を行うということですね。

中塚：そうです。ボールについてですが、実費がかかったクラブだけとなると、筑波などは実費はかからないけどものすごく多く試合を行っています。その点は考慮してもらいたいですね。そこはきちんとルール化するのではなく、6個のボールを6クラブで分けられるように管理部で考えてもらうということによろしいですか。記録用紙については来年から変わりますのでご注意ください。

玉生：経済的に負担がかかったクラブに渡すのももちろん良いのですが、筑波や豊島など、お金はかからなくてもかなり負担がかかっているクラブはあると思います。6個なら、実費が多くかかった3クラブと、グラウンド提供数の多かった3クラブで分け合うのはいかがでしょうか。

中塚：そうしましょう。

江口：本当は、グラウンドが必要なのは日程会議の段階ですよ。そうすると豊島や筑波は自分たちの試合がなくてもかなり遅い時間までお付き合いするわけですよ。グラウンドを借りた方が主催ということには疑問が湧きます。実際に主催するという事は何をすることなのかという定義が決まっていればおのずと決まると思います。

中塚：主催するとは、「グラウンドを確保して、当日の試合運営をして、報告すること」です。

江口：それを1シーズンの中で1チーム最低4試合はやるということですよ。自分のチームの試合以外でも主催するということですよ。

中塚：ここが少しずつ曖昧になってきているのは、グラウンドがないクラブが、その試合数だけ主催することが現実的に難しいからです。例えばクラブユース連盟は、グラウンドを持って一定数主催できないと連盟に入れてもらえないですよ。だけど DUO リーグはもう少しハードルを下げて、地域で問題を解決していこうという考えです。だけど、その部分が先行しすぎて、依存傾向にあるクラブが見受けられるというのが今回の小金丸さんの問題提起です。いま一度、一節主催するよう努力するということを確認していきましょう。モルテンボールについては、実費が多くかかってしまったクラブと、実質的に何試合もグラウンドを貸したクラブに行くようにしましょう。

⇒ 2010年度後期については、ボールが欲しいかという各クラブの希望も考慮して決定した。

外部の会場での主催数が多いクラブとして、FC 西巣鴨 03

グラウンド提供数が多いクラブとして、筑波・江北・小石川・荒川商業・都豊島

2. 各賞選出

(Eリーグ 優勝：関東一A)

1部リーグ 優勝：都江北B MVP：芦葉勇哉（都江北） 得点王：須賀大介（郁文館、8点）

2部リーグ D 優勝：筑波大附 U 優勝：都荒川商 O 優勝：日大豊山

得点王：D 安達翔梧（筑波大附、9点）

U 阿部統（巣鴨、8点）

O 清水健太（竹早、6点）

後期2部優勝とMVPについてはチャンピオンシップ終了後に決定

優勝審判賞：藤ノ木圭太（駒込2年）

受賞理由「怪我をしていたのでキャプテンとしてできることをということで、積極的に審判を行っていた。評価も安定している」

特別賞：該当者なし

議題Ⅱ. 各部門より：2010年度総括 or 中間報告 & 2011年度へ向けて

1. 事業部門（玉生事業部長）

1) 競技部（各リーグ責任者）... I-1で報告済

玉生：2010年度については既に報告済みです。2011年度からについてはシーズンとリーグ構造が決まってきたからリーグ編成を行います。頭に入れておいていただきたいことは、上位リーグから DUO1部に降格してくるのは3チーム、いま DUO1部で戦っているのが8チーム、2部で優勝したチームが3チームあって、それを足すと14チームだということです。その点を考慮しつつ、リーグ構造を考えていかなきゃいけないと思います。

2) 審判部（◎城西・文京・巣鴨）

嶋野：審判講習会を3月13日（日）に筑波大附のグラウンドと体育館などのスペースを貸していただいで行います。今年の3月に行った時には一般の大人が混ざっていたりしていたので、DUO関係者限定ということで、考えられる予防策をとって行います。4級審判の資格を持っていて更新の手続きがまだの方については、1月20日まで更新手続きの期限を延長したという連絡がありましたので間に合います。更新講習会を受けたいという方については2月に更新講習会が設定されていますので、キックオフサイトよりお申し込みください。

3) 技術部（◎郁文館・豊島・小石川）

長山：今日の DUO リーグ交流会の報告をします。各リーグ1チームずつ作ってトーナメントで試合

を行いました。最初はEリーグを含めて5チームを考えていたのですが、私のアナウンス不足とEリーグ参加チームが少ないため、DUO1部・D・U・Oの4チームで試合を行いました。

1回戦 Dリーグ 4-2 1部リーグ Oリーグ 1-0 Uリーグ

3位決定戦 1部リーグ 4-0 Uリーグ

決勝戦 Oリーグ 2-1 Dリーグ

前回からの反省で、今回はより多くのクラブから参加してもらおうということで、各リーグで1チームつくることにしました。多くのクラブから選手を出してもらって試合ができたと思います。

先ほど亀井先生からお話があったように、1チームに依存してチーム編成するリーグがあったことが反省点です。前回のようにその場でチームを組んでただ試合をするというよりも、今回のように勝ち負けが関係してきた方が選手たちも一生懸命できたのではないかと思います。単発で1日集まって深く交流ができるかという点と難しいので、その点が今後の課題です。

2. 管理部門（本郷管理部長代理）

1) 経理部（◎豊南・向丘・足立学園）

林：資料をご確認ください。金額が入っていないところが、入金が確認されていないところです。駒込前期 20,000 円となっていますが、後で追加がありましたので、クラブ参加費前期は 40,000 円になります。加盟費・参加費をまだ支払っていないクラブは早急に支払いをお願いします。

本郷：納入の期限がありますので、至急確認をお願いいたします。

中塚：資料にある「クラブ参加費」は「チーム参加費」の間違いですね。加盟するのはクラブ、参加する単位はチームです。訂正をお願いします。

本郷：2月の会議までに決算を終わらせたいので、今のところパンフレットしか支出が出ていない状況ですが、スキンプロジェクトなど各部署での支出を林先生に報告していただければと思います。

2) 広報部（◎淑徳巣鴨・日大豊山）

石原：今期も原稿の提出ありがとうございました。まずは2011年度前期リーグプログラムの締切を決めたいと思います。

中塚：3月19日はいかがでしょうか。

石原：3月19日（土）締切でお願いいたします。他にメンバー表など変えた方がよいというのがあれば言っていただければと思います。

岸卓：資料の中にDUOリーグアンケートの結果が載っていますので、そちらも参考にしてください。

中塚：一言コメントの欄をもう少し活用した方がいいと思います。

玉生：アンケートの中にある「選手のプロフィールに前々所属までであるといい。誕生日、一言はいい」は僕の意見です。一言も、やるならやるで徹底してやらないといけないと思いますし、最近流行りの「前々所属」は、他のプログラムで見てもおもしろいし、そこで指導されていた方にとってもうれしいことだと思いますので、一言より良い影響を与えるのではないかと思います。

中塚：「前々所属」はいいよね。

玉生：都大会のプログラムでも「前々所属」の欄を空欄にして出しているチームは多いのですが、きちんとやればいいと思います。

亀井：「前々所属」だと、小学校からやっていない人はどうしたらいいですか？

玉生：野球部などを書いてあっても、それはそれでおもしろいかなと思います。

中塚：当面「一言コメント」をそういう風に使ったら？

石原：ページの関係上、何かを削らないと新しい項目は入らないと思います。

遠藤：「一言」にはどういうことを書くのが望ましいのでしょうか。例えば、ストロングポイントを書いているクラブもあれば、おちゃらけているクラブもありますが、何を求めているかわかりづらいいと思います。

中塚：当初考えていたのは、あのプログラムを見れば DUO リーグにどのような人がいるのかわかるようにしたいというものです。プログラムから相手チームの情報を見て試合に臨むということをイメージしていました。最初はアピールポイントという書き方をしていたと思います。どのような人がいるのかわかることが目的ですから、当面「一言」の欄は残し、そこに「前々所属」を書いてもいいし、うまく活用していく方向でいかがでしょうか。

遠藤：「前々所属」はどのような人がいるのかわかるので入れることに賛成です。その上で「一言欄」は、書きたいことがあれば書いてもいいし、スペースがなければ削るということはいかがでしょうか。僕個人としてはプログラム自体のステータスが下がるので「一言欄」はカットすべきだと思います。

中塚：そういう意見が多いのであればそちらの方向でもいいかなと思います。

小金丸：遠藤先生の意見に賛成です。

中塚：それでは「一言欄」を「前々所属欄」に変える形で進めて行きましょう。

石原：了解しました。企画についてはまた個別に相談に伺いますのでよろしく願いいたします。

3) 規律部 (◎豊島学院・京華) ... I - 1 で報告済

3. 企画部門 (丸山企画部長)

1) 地域活動推進部

(文京区 : ◎昭和一・駒込・竹早 / 豊島区 : ◎立教池袋・FC 西巣鴨 03 / 足立区 : 都足立)

文京区 (永井)：去年、名波選手を呼んでイベントを行いました。今年もまた行いたいと考えています。具体的な日程などについてはまだ決まっていません。

豊島区 (岸弘)：いま配布しているチラシをご覧ください。FC 西巣鴨では毎年、総合型地域スポーツクラブとしてイベントを企画しており、今年はブラインドサッカーの関東リーグに所属しているチームを呼んでブラインドサッカーの体験会を行います。アイマスクをして、いかに目を使わないでやるのが難しいかを体験してもらおうと思っています。地域スポーツクラブに所属している小中学生が中心ですが、ぜひ DUO リーグで興味を持っていただける方がいらっしゃいましたら、生徒だけの参加でも全然構いませんのでご連絡いただければと思います。

丸山：マネージャーが別の種目で参加するというだけでも構いませんか？

岸弘：もちろん構いません。サッカー部の生徒以外でも構いません。

足立区 (安藤)：私事ですが、来年度まだ都立足立高校にいられるかわかりませんが、仕事の方はやりたいと思っていますので、そういう方向でお願いします。

2) 医科学活動推進部 (◎江北・養和・本郷)

玉山：例年リゾスポの藤原さんにご協力いただいて講習会などをやっていますが、後期についてはまだ何も活動していない状況です。藤原さんから何かございますでしょうか。

藤原：まだ具体的には考えていませんが、来年度もまた何か実施したいと考えていますのでよろしく願いいたします。また、前回の会議でもお伝えさせていただいたのですが、**本校のマシンルームを DUO リーグの皆さんにご利用いただければと思います**。今年度については京華高校と城西高校に11~12月に計5~6回ご利用いただきました。来年度もどしどしご利用いただければと思います。

利用申し込みは直接連絡ください。

玉山：3~4年医科学推進部を担当してきましたが、この◎は他のクラブにも移動するのでしょうか。

中塚：2年任期です。

3) スキンプロジェクト推進部 (理事会)

岸卓：後期に行った活動として、Dリーグ交流戦の際に靴磨き講習会を実施しました。マネージャーも参加してかなりいろいろな人が参加する講習会になりました。そして本日、キーケース・コインケースづくりを行いました。

土谷：今日は30名ほど参加者がいました。1時間半ほど間が空いてしまう場面がありましたが、100名ほど用意していましたのでまだまだ参加者が増えても大丈夫でした。

議題Ⅲ. 2011年度のDUOリーグ

1. シーズンとリーグ構造

○1シーズン制か2シーズン制か

中塚：11月22日付で「チェアマンより」ということで、シーズンとリーグ構造についての原案を示しました。岩野さんから意見をいただきました。それに対するチェアマンからの返信が12月6日付のものです。さらに玉生事業部長からも、地区トップリーグの動きを含めてコメントいただきました。同じ日に岩野さんからもう1度いただいたのが補足資料5です。その後、補足資料6でチェアマンからのコメントとしてまとめて書かせていただきました。1シーズン制のデメリットを(1)~(4)まで示しています。もう一方で1シーズン制にした時のメリットも示しています。

1シーズン制の最大のメリットは、長期に渡って安定した組織の中でプレーできることで、トップリーグについてはこの形式でいいと思います。来年度から始まる東西全国リーグでは、ある一定のチーム数を確保してホーム&アウェーで年間通して行います。サッカー先進国の中でユース年代の長期に渡るリーグ戦がなかったのはわが国くらいです。そういう意味ではトップの方はようやくグローバルなスタンダードに近づいてきたのではないかと思います。

ただし、シーズン途中にも関わらずチーム編成が変わり、戦力が変動するのは困るということが、1シーズン制の注意点です。

そして、「変える」ということ。これは大きなエネルギーがいることで、「もし賛同者がいてまとまるようだったらDUOリーグ会議で提案して欲しい。ただし、いきなりDUOリーグ会議で提案するのではなく事前に意見交換をしておきたい」と書きましたが、私のところには「変える」方向性の意見は届きませんでした。

この他、運営能力の問題は大きな問題としてあると思います。どの大会に照準を合わせているかについては、ほとんどの高校が高体連の大会に照準を合わせているだろうけど、学校によってその位置づけはさまざまだろうということ。それから、引退なしの意味と現状。あとは文京区中学選抜とFC西巣鴨03についての問題など。直接関係ないコメントも含めて資料に掲載しました。

それを踏まえて改めて11月21日付の提案に戻ります。2011年度のDUOリーグについては従来通り2シーズン制とする。ただし、昇降格の時期と方法については工夫するということについてはいかがですか。

遠藤：チェアマンへ質問ですが、僕は事前に言っていないのですがここでいきなり意見を出すことはまずいのでしょうか。

中塚：そうですね。そのための期間があったわけですからね。

遠藤：僕は1シーズン制でいきたいという立場なのですが、今のお話しですと先に連絡がなかったのという話をはじめにありきななので意見を言いにくいのですが、言ってもよろしいのでしょうか。

中塚：発言権はありますからね。

遠藤：これは決を取る問題ではないんですか？

中塚：「ない」とこちらは判断しています。つまり、理念に対してどうなのか、このリーグが積み上げてきたものは何なのかという話なので。だから余計に、異なる意見があるのであれば、事前に直接話をしましょうという提案をしていたわけです。

遠藤：岩野さんの意見に賛成という考え方なので、改めて意見を述べる必要はないというスタンスでいました。他の方の意見が事前に集まるのは中塚先生のところだけじゃないですか。そうすると我々

はわからないわけですよ。それでいま連絡はなかったとわかったわけです。ここに来てみないとわからない中でここから議論が始められないのはアンフェアかと思うのですがいかがでしょうか？
中塚：そうでしょうか。

遠藤：つまり発言権はあるということで、ここで発言をさせていただきながら、この話は採決事項ではないということですので、参考意見ということになるのであれば発言する意味もないので時間の無駄かという気もします。ただ、僕はそういうことを揉んで今日の会議が終わるという認識で来ているのですがスタンスとしてはいかがですか。もう多少の意見の食い違いがあっても2シーズン制でいくということですか。

中塚：事前に私のところに別の具体的な提案がなかった以上、その方向でこの会議は進めて行こうと考えていました。

遠藤：それに対する反論もないから、岩野先生も納得したという認識ですか？

中塚：納得したかどうかはわからないけれども、1シーズン制を支持する強いムーブメントは見えなかったなということです。とにかく、今は2シーズン制でやっているわけです。それをもし変えるのであれば相当なエネルギーを注いでもらって、具体的にいろいろなデータを積み上げてもらって、事前に関係各所と調整してもらいながらアクションを起こしてくれないと、この場で新たな提案をされても困ります。

小金丸：例えば2月にも会議があって4月スタートなので、この会議までにまとまった意見がないからなしというよりも、ここで1つ問題提起をして、ここで結論が出なくても2月に結論を出すということでも私は時間があるのかなと思います。メーリングリストですとなかなか意見を出せないけれども、この会議で意見を伝えたいという人も中にはいるのかと思います。

中塚：夏のDUOリーグ会議で問題提起があったわけです。その後1回、公開型のミーティングをやりました。さらにメーリングリストを使っての意見表明の場も用意されていたわけです。次の準備のこともあるので、1シーズン制か2シーズン制かについてはここで結論を出さないでだめです。2月の会議は、次のリーグの準備の会議です。

遠藤：その間に東西リーグの話が出てきたり、Tリーグや都道府県リーグにBチームも参加させろという意見が上から下りてきたり、ホーム&アウェーでやらなければいけないという話が出てきたり、それに対してT2・T3が昇降格の問題でものすごく意見がぶつかり合ひながら妥協点を探しているという作業をしています。タイミング的にこの会議の前にそういうブームメントがなかったと言われると、個人としては、いま意見を言って再来年度に向けてという話になるかもしれませんが、1シーズン制を真剣に考えている奴がいるという認識でいて欲しいです。個人的にもう少し具体的に言うと、DUOの1部は1シーズン制にして、2部を2シーズンにするというのが僕の意見です。地区トップリーグやT3につながるのだから、まずカレンダーを合わせてスムーズな昇降格を目指すべきかなというのが個人的な意見です。今までは地区は地区、TはTというように普及と強化という形で分断されて考えられていたことが上の方ではあって、今回ここを経ないとTリーグに上まで上がれないという構図が出来上がっている以上は、理念に賛同するかどうかというのももちろん大事ですが、上を目指すチームはここからスタートするというのが義務的にかなり色濃くなります。

中塚先生は、それはそれで、理念に賛同してもらえなかったらだめだという話になるだろうけれども、前々とは意味合いが違っている気がします。中塚先生が言うメリットはすごくわかるんですが、1部だけでもそういうスッキリした形にしておかないといけないというのが僕の考え方です。

ここで答えはいりませんが、僕の聞く範囲では、1シーズン賛成と思われている方がそんなに少ないと思います。

宮坂：駒込は今回1部7位なので通常であれば降格なのですが、降格したとしても、僕も1部リーグについては1シーズン制で、2部リーグについては2シーズン制でいくべきだと思います。DUOとして築き上げてきたものがあるので西巢鳴や文中選が活動できる場はこれからも設けていかなければいけないと思います。1部が1シーズン制で2部が2シーズン制だとしてどうやって昇降格を決める

のかという話がありますが、前期優勝チームは後期勝点3を持った状態からスタートするとかいろいろの方法があると思います。主催試合についての話に繋がるとは思います。試合がたくさんできる環境ができていることはありがたいことだと思いますが、蓋を開けると7月と12月に試合をすごく入れている気がしていて、8月もグラウンドを使えるとなればよりスムーズになるのかなと思います。試合数が少なくなるということはあるのですが、1~2試合減ったとしても、本当に1~2節主催できる運営能力を身につけるのであれば通年制でやった方がいいと思います。地区トップに上がっていきなり通年制でやるという方が危険な部分もあるように感じます。

小金丸：私も1部リーグ1シーズン制で2部リーグ2シーズン制に賛成なのですが、リバーサイドはこの方法で来シーズンから行います。2部前期優勝チームは昇格はできない。しかし、優勝ということに関するメリットとして、後期は勝点3を持った状態からスタートする方法で行います。この方法だと上にも繋がるし、下にも配慮しているとてもスムーズなシステムだと思います。そのところすごい労力がかかるとは僕は感じません。ですから、そこについてもう少し皆さんで意見を出し合ってもいいのかなと思います。

早川：私自身はまだ迷っています。この場で他のリーグの情報なども聞いて、自分の頭の中でもすっきりしてくるのかなと思っていました。ですから、ここでたくさん意見を言っていただいて、その後どのような形で決めるかも含めて時間を取ってもらえたらと思います。

中塚：それは、別に会議の日を設けるということですか？

早川：2月に間に合うのであればぜひそういう方法でいいと思いますし、今日決める必要があるのであれば意見を出し合った上で決められればと思います。

中塚：大前提として、皆さんメーリングリストは見ていますか？

亀井：私は見ていますが、上の状況がわからないものですから、ここで上の状況を聞いて上に合わせるのもいいと思いました。しかし、まだここで聞いた限りでも完全に理解していないものから、どちらとも言い切れません。

江口：僕はメーリングリストを見ていて、中塚先生の、DUO事務所にて明日続きをやりませんかという提案で終わっていると認識しているのですが、そこで終わりですよ。中塚先生と岩野先生はその後やり取りをされていないということなんですよ。

中塚：そうです。

江口：それ以降話があったかどうかはメールではわかりません。ですから岩野先生が何か意見を集約したりアクションを起こしていたかどうかについては僕らにしてみても今日までわかりません。僕らはメールは読んでいますが、お2人の間に入りづらかったのが正直なところです。

中塚：もしそういう具体的な提案がこの会議でなされるのであれば、メール上に出てきたのは岩野さんですから、岩野さんが同じような意見を持っている人に声をかけて何らかの形で提案がなされるのかなと僕は思っていました。ですが提案はなされなかったため、今日はないんだなど。そしてリミットもあるので提案はなかったという前提で話を進めているわけです。

岩野：賛同者を得なさいというメールだったので、選抜で指導者が集まった時にそこでいろいろ話をしました。そこで1シーズン制の意見も多いということもわかったのですが、この会議までにアクションは起こせませんでした。中塚先生の、明日月曜日にDUO事務所で話しませんかというメールも、月曜日は休みで空いていたのですが、メールを見たのが火曜日になってしまったため、そこで意見が言えれば本当は良かったと思いました。賛同する意見は集めていたので、そこでまとまった意見は言えたのかなと思うのですが。全く動いていなかったわけではないということをご理解ください。

中塚：スキンプロジェクトのミーティングをメインに、月曜日に会合を持つという話は、もっと前にメーリングリストに出ていましたけど。堂々巡りになってきています。議題表では「2011年度(以降)」となっていますが、「以降」は外して、2011年度はどうするか話しましょう。**2012年度以降のことについて、やっぱり1シーズン制の方が良いという意見があれば、後日、具体的に提案してく**

ださい。参加費の問題だとかいろいろなところに反映してくると思います。何チームでリーグ戦をやったらどういうスケジュールで試合を行えるのかシミュレーションしてみてください。リバーサイドで1部1シーズン制、2部2シーズン制でやるという話は情報として持っているけれども、もしこれをDUOでやったらどうなるか具体的に考えてみてください。同じクラブ内で1シーズンでやっているチームと2シーズンでやっているチームが出てくるわけです。それらの問題をどうするかも含めてもろもろ考えられることをちゃんと絵にして提案してください。ここでは**2011年度のこと**に限定して議論し、シーズンについては従来通り**2シーズン**ということを進めたいと思います。

小金丸：なぜそこまで準備をしてというようにしなければいけないのですか？

中塚：逆に、準備なしでそういう提案はできるんですか？

小金丸：図にまとめて提案しなければいけないと言われるとすごく違和感があります。もちろん、準備は必要だと思うんですが。

中塚：だから、それをやってください。

亀井：やはりいろいろな状況に対応できるようにしなければいけないと思います。

嶋野：原案にある「昇降格の時期と方法については工夫する」という部分についてはこれからですか？

○2011年度の後期リーグ最終日について

中塚：それではリーグ構造と関係するので補足資料I-2に移って良いですか。3つの案を出しています。

第1案が従来形。第2案が前期1部優勝と後期1部優勝で年末にチャンピオンシップ。第3案は前期1部の結果に応じて後期1部を編成するという方法です。これらについてはいずれとも取れないのでここでの議論かと考えています。

江口：僕は2シーズンにするのであれば、原案の「9～12月にリーグを行う。(1～3月はオフシーズン～プレシーズン)」というところを若干変えていただけないかなと思っています。理由は、今年も12月5日まで新人戦があったので、後期が日程的にすごくきつかったんですね。若干年を越すというのはまずいのでしょうか。

嶋野：私もそれを思っていました。昇降格という部分で、いつまでに昇格するチームが決まれば大丈夫なのかということを考えていけないと思います。9～12月ではリーグ運営が厳しいと思っていました。

玉生：地区トップリーグとしては、各地区リーグを年内に終わらせてくれると次が動きやすいです。1月の終わりごろから地区トップリーグの運営者が集まって次のリーグの話をして、2月の中旬に代表者会議があるので、できれば年内に決まってくれた方が地区トップリーグの運営はやりやすくなります。

江口：関東の日程が4月から変わってきたことで若干余裕ができたのかなと思うのですが。

中塚：空白ができたからそこにリーグ戦を入れてしまうとオフシーズンがなくなるわけです。

江口：若干オフシーズンのところがずれてしまうが考慮できますかという質問です。

中塚：考慮できる範囲は12月末日でしょうね。去年はインフルエンザ関係でそういう風になりましたよね。

嶋野：2シーズンになっている現状ではこの期間では厳しいという意見が他のクラブでもあると思います。

玉生：12月31日までにすれば今日も試合ができます。さらにもう1週間あるわけですから、12月いっぱいまでは伸ばしていいかなと思います。

中塚：僕も腹案としてはそれを思っています。

江口：それを踏まえてII番の議論に入れればと思います。

玉山：12月末日までになった場合、会議は1月まで持ち越しますか？

中塚：この日(12月23日)はこの日でやりたいと思います。

玉山：試合が12月末日まで行われるのであれば、会議はそれより先になるのではないかなという感覚

なのですが。

中塚：そうした時に会議の日にちがとれるかですね。

玉山：もし会議を1月にした場合、その日までに試合をすればいいというチームも出てきてしまうのではないかと思うんです。12月末日までにするのであれば、そもそも1月までにしても変わらないのではないかなというのが僕の考えです。

遠藤：関東プリンスへの都県代表の昇格決定戦が毎年まちまちではっきりしないから、皆それに振り回されているんですよ。あれを2月にやられるとTの日程決めに3月以降にやらなければいけないじゃないですか。そのしわ寄せが全部来るのがこういう地区リーグなんですよ。だから僕の意見は、オフシーズンを短くして冬休み終了くらいまでシーズンとしてやったら少し余裕が出てくるかなと思います。12月末日までにやらなければいけないという理由があまり強い理由だと思えないんです。元に戻す気はありませんが、こういう問題も1シーズン制にすれば解決するのではないかと思います。僕が勝手にやったシュミレーションでは、12チームリーグだと10月に入らないで終わります。

中塚：これは後期の部分ですよ。ですので、**後期最終日をいつにするかはここでは保留にしましょう。**ただ基本的な趣旨としてはオフシーズンをしっかり確保しようということがあります。**会議日についても保留にさせていただきます。**

玉生：後期末の会議は締めくくりの会議であって欲しいと思うのですが、あと1~2試合残した中でこの会議を開いて昇降格のパターンを考えて終わっても運営上問題ないと思います。

○2011年度のリーグ構造（含昇降格）について

中塚：IIの話に戻ります。第1案~第3案を併記していますが、ここでは第1案をベースにして考えていきたいと思います。そうすると確かに前期1位のチームは良い思いできないのではないかなというのがありますが、トロフィーがもらえるという大きなメリットがあるので、従来通りの第1案を採用したいのですがいかがでしょうか。

玉山：1部リーグのオーバーエイジ枠はどうなるのですか？

中塚：それは前の会議でなしになったよね。

江口：1部リーグに来年度上から3チーム落ちてきて、下から3チーム上がって、今8チームあるので合計14チームと考えると、第3案の2ブロック制がいいかなと思います。2011年度に関してはそうしないと運営できないかなと思います。

嶋野：私も第3案でいいと思います。第1案をベースにした場合、今まで下から上がってきたチームも大多数落ちてしまうので、1部は減らさない方がいいのではないかなと思います。

中塚：第3案はそもそも1番始めに玉生事業部長と話した時に出てきた案です。

玉生：ここには載っていませんが、後期に上位と下位に分けない案もあるとは思いますが。1部を何チームにするかをまず決められればと思います。

中塚：時間も押しているのでここでは**1部を何チームにするかだけ決めましょう。**その先については**2月の会議で話しましょう。**

玉生：前後期ということを考えたら1リーグ8チームというのは必須だと思います。そうすると8チームか16チームかだと思います。

中塚：今ここは2011年度1部リーグを増やす意見が多いですか。それでは、**第3案をベースにして1部リーグを増やす方向で考えましょう。**後期どうするかは次回でいいのかな。問題点としては、2010年度後期の結果で2011年度の居場所がほぼ決まってしまうということがあるんだけど。

江口：それは後期に上位と下位に分けるからですよ。そこが流動的であれば居場所は決まらなくてすよね。

玉生：7チーム×2ブロックという意見も出ています。7チームと8チームは、運営的には一緒なので揃い上げてあげる方がいいのかなと思いますが。7チームにすると一節休みのチームが出てきます

ので。

中塚：16 チームを 14 チームにすると 2 部の昇格戦をやらなければいけなくなるんですよ。

玉生：そうしたら 8 チームの 2 ブロック制でいきましょう。そうすると **2010 年度後期 2 部優勝チームは 3 チームとも自動昇格して 2 部リーグ 2 位チーム同士での順位決定戦**をしてください。

中塚：そうしましょう。では、筑波大附、都荒川商業、日大豊山は自動昇格。立教、巣鴨、京華で昇格戦をしてください。試合形式は 3 つ巴戦で行いましょう。

亀井：1 部最下位の文京 A を含めて 4 チームで昇格戦をするのはどうですか。

中塚：それは違うね。その日程決めは当事者同士でやってください。

玉生：チャンピオンシップ、昇格戦のやり方も当事者同士で相談したらいいのかなと思うのですがどうですか。

中塚：原則 3 つ巴戦でいいと思うんだけど。その試合を行う期限が次回の DUO 会議でも関わってくるので、先に次回の DUO 会議の提案をさせてもらおうと、2 月 27 日でどうでしょうか？

玉山：試合形式について、3 つ巴戦よりちゃんと日程を 3 日間取ってやった方がいいと思うのですが。前期末 3 つ巴戦でやりましたが、昇降格がかかっている場合はちゃんとやらせてあげた方がいいと思うのですがいかがでしょうか。

中塚：前期については期間がないので 3 つ巴戦で実施していますが、後期については時間的ゆとりがあるので、当事者で相談して決めていた時もありました。それを踏まえた上で、今回は 3 つ巴戦でいきたいと思います。

玉山：3 つ巴戦はいいのですが、40 分でチームを変わって行う形式なのか、ちゃんと 1 試合ずつ区切って行うやり方なのかということについてはいかがですか。

小金丸：冬場は 40 分あけてまた試合ということになると怪我なども心配なのでもし時間的余裕があるのであれば当事者同士で決定すればいいと思うのですが。

玉生：では、期限だけ決めて当事者同士で審判のことも含めて決めてもらいましょう。チャンピオンシップと昇格戦が別々のやり方になっても当事者互い納得した上で行うのであれば OK ということにしましょう。

中塚：事業部長、2 月 27 日に実施しても大丈夫？

玉生：27 日にははっきりしておいてもらいたいです。

中塚：では、**2 月 26 日までに実施し、結果は速やかにメーリングリストで流してください。**

2. スキンプロジェクト

土谷：スキンプロジェクトの土谷から、先日 DUO リーグ事務局で会議した内容について説明させていただきます。2 月の会議で、DUO リーグカレンダーに経費がかかりすぎているのではないかとことで、経費報告も含めてお話しさせていただきました。それに合わせて DUO クラブでどの程度カレンダーが使われているかを事務局からアンケートしてもらいました。16 チームから回答がありました。その回答結果から見ても、過半数が、いまのカレンダーの配布を求めてはいないのではないかとことでした。ただし中塚チェアマンからの依頼として、DUO リーグの理念を象徴するアイコンになるようなものを必要とされているとのことでしたので、カレンダーを作ることは続けようということになりました。

しかし全 DUO リーガーに配布するには印刷費等がかかりすぎます。そこで、それを自力で作る方法がいいのではないかと考えます。DUO リーグは、理念としてもオルタナティブな活動体であるということで、DUO リーガーも DUO リーグの理念を実践する方法として、カレンダーを作るワークショップを 2 月 27 日の DUO 会議前にやってみたらどうかということをご提案させていただきます。カレンダーの配布方法について、暫定的に各クラブ 10 部ずつ配布します。制作方法は版画の方法でやろうと思っています。2 月までに私の方でいろいろとアレンジさせていただこうかと思っています。これによって梱包費、郵送費、印刷代がカットされると考えます。

新しく作るカレンダーですが、DUO リーグという活動体が日本のサッカー界では固有のものであり、今までそしてこれからの活動の在り方は日本のサッカーの歴史の中で意味のある実践になってくるといことも考え得るので、リーグそのものの運営もしかりですが、そのリーグに所属しているクラブがどのようなスケジュールで年間運営しているかということを知りたいことをリーグ事務局がアーカイブしていただけるようなカレンダーにしていただければと提案させていただきます。配布するカレンダーについては、各クラブの部室もしくは教官室のスケジュール帳として、10部配るうち好きな数だけ使っていただき、各年度の最後に DUO リーグの事務局に提出するような形にしようと思っています。今は案ですが、それを展覧会あるいはコンクールのような形にして、このクラブはこれだけ苦労していたということを俯瞰して見えるようなカレンダーという意味づけをさせていただければと思っています。

嶋野：オルタナティブとアーカイブの意味が分からなかったのと、私はアンケートに答える中で、全メンバーに配布しているに○をつけたのですが、カレンダーが大きすぎてたくさん届くので、場所をすごく考えなければいけなかったり、生徒が教室に貼っても、模試の大学難易度ランキングよりも大きいので、貼る場所に困っています。しかし捨てるには忍びないくらい良い紙でできているので、大きさや実用性で何かもっと良い方法があるのではないかと思います。

これから 10 枚配られるとなった時に、10 枚だと全員に渡すことはできませんし、かと言って学校に貼るとなると大きさを考えなければいけないし。実際どのくらいの大きさになるかというお話しはなかったのですが、そういう点も考えていただけると、使いやすい、ぱっと俯瞰できるようなものができるのではないかと思います。ワークショップでいきなり作るのではなくて、その前段階でどのようなものか教えていただけるといいと思います。

土谷：オルタナティブという言葉については、従来の高体連とかサッカー協会が行っているリーグや従来の地域リーグとは異なる運営の仕方をしているということで、主流のやり方とはまた違う第 3 の道を歩んでいるという意味で使いました。アーカイブとは資料として事務局が保管していくという意味です。今までのカレンダーでは、前期のスケジュールは決まっているのでそれを緻密に入れさせていただいたのですが、作っている本人も見づらいということで、今回はまっさらなカレンダーを作ろうと思っています。各クラブに予定を書き込んで使ってもらいたいイメージです。サイズは変わらない大きさでと考えています。

嶋野：今話を伺っていて、奇をてらっているように感じました。実際にスケジュールが並んでいて、カレンダーはわかるけれども何のカレンダーなのかがわからない。カレンダーなのだけれども DUO リーグというところが出てこない。おもしろいなと思えるのは大きさだけではないので何か発信の方法があるのではないかと私は考えていて、端的に言うと大きすぎると思います。

中塚：大きさは考慮できるよね。

土谷：できると思います。でもこの間のミーティングで中塚さんがあの大きさにこだわっていたと思うのですが（笑）。岸君からは A4 とかでもいいという意見があったと思うのですが。

中塚：要するに、自分たちで書き込めるようにしたいんです。そうすると書きこむスペースの問題もあるので。

嶋野：そもそも必要性がそこまであるのかなというのが私が思うところです。どれだけの生徒が書き込んでいるのか調査していないのでわかりませんが、継続していくのであれば調査が必要なのではないかと思います。アンケートについても全クラブが回答していないですし、生徒の生の声がどれだけ反映されているのかも、できれば具体的に見ていかないといけないと思います。

中塚：こういうのはそもそも“遊び”なんです。DUO リーグ自体が、はじめた当初の“遊び心”を見失っているなという気がしています。調査はものすごく大事だしやっつけていかなければいけないと思うけど、もう一方で“遊び心”が入り込む余地を持って行こうということでアートとの繋がりができ、トロフィーがないプロジェクトからスキンプロジェクトに展開しているわけです。もっと気軽に考えてもらった方がいいですね。

土谷：今回はカレンダーというよりも、共通のフォーマットの、壁に貼れるスケジュール帳のイメージが強いと思います。ただし 10 部という枚数に関しては、検討の余地があります。

嶋野：1 部と 10 部では金額が変わりますか？

土谷：今回は紙代しかかかりません。要するに DUO リーガーと一緒に作っていただくというやり方なので、紙代と版代だけです。つまり、外注に出さないやり方でやっていったらいかがですかということです。

中塚：2 月 27 日にその作業があるわけですね。自分たちのスケジュール帳としてのカレンダーを自分たちで作るというイメージです。

宮坂：生徒に DUO カレンダーを渡した時に、大きいから貼れませんかと言われます。歯磨き感覚ということで、いつも DUO リーグがそばにあるということと考えたら、DUO リーグのカレンダーに書き込むというより、僕なんかは日程表を全部出しているの、生徒たちはそっちで確認していることの方が多いです。だから、卓上型とか、よりシンプルなものの方が DUO ということがわかるし、置くのに手間取らないと思います。

土谷：普通のカレンダーでも良いと思うんですね。ただ、あのサイズに中塚さんがこだわっていたので。例えば、1~12 月まで毎月 1 枚ずつあるというものでも、今回は版画なので作れると思います。私の方でもどうするのが無理なくできるか検討して、メーリングリストなども活用してお知らせさせていただければと思います。

玉山：いまホームページもとても見やすくなっていて、生徒たちはよく見ているので、ホームページからダウンロードする方法でも良いのかなと思います。

土谷：その意見はこの前のミーティングでも出ました。ただ、現物があって学校に貼るというように 1 つのアクションになるやり方が良いと。

玉山：私が言っているのは、貼れるというのはすごくよくわかるんだけど、僕が前回話したのは、生徒の登録費 800 円をもう少し削って 500 円にならないかということもあるんです。遊びから始まっているから軽く考えて欲しいということではなくて、実用性がある確認しやすく、しかも生徒の登録費が掛かっているわけですから。それらを考えた上で、ホームページの方が安いのであればその方がいいのではないかという意味です。

岸：公開型のミーティングをしましたが都合が悪くて来られなかったという方もいらっしゃると思うので、土谷さんにサンプルを作っていただいた上でもう 1 回意見をいただいて、最終的に 2 月 27 日に臨めればと思います。

土谷：あと、スキンプロジェクトからお願いがありまして、今日コインケースづくりをやりましたが、廃材の回収が 2 年前からほとんど進んでいなくて、トロフィーを作った時のストックがなくなりました。各クラブで部室の掃除を今の時期行うでしょうから、出てきた捨てる靴だとかを取っておいってください。岸事務局長が回収にいきます。

岸：毎回スキンプロジェクトをやる時に靴やボールの回収を呼び掛けていますが、なかなか持つてくるのは大変かと思いますので、今度は私が取りに行きます。

宮坂：トレシューでもいいですか？

岸：トレシューでも大丈夫です。

土谷：あとビブスなんかも使ってみたいのでお願いします。

中塚：スキンプロジェクトは DUO リーグが出発点となって発信しているプロジェクトです。僕も指導者養成の講習会等でこの話を紹介しますが、地域クラブで指導されている方々はこういうことにすごく食いついてきます。スポーツだけだとなかなかお金は回らないけど、こういう繋がりを活かすことで、お金を回すしくみにもつなげられるのではないかということです。これからもどんどん進めていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

3. 事務局基能の強化（マネージャー育成プロジェクト）

岸：今日は卒論の関係で来られなかったのですが、マネージャーとして東京学芸大学4年生と明治大学の4年生に手伝っていただいています。私が現在、青年海外協力隊に応募しており、もし2次試験で合格すると来年から2年間海外に行くこととなりますので、しっかりと引き継ぎができるように進めていきたいと思えます。

資料の中に「事務局予算案」ということで、9月12日に各部長に送らせていただいた案を入れております。いまは、月3,000円×12カ月でいただいています。作業的にも多いですし、もう少し値上げしていただけないかというお願いです。通常業務を時給1000円×週3時間で考えて、会議やイベントでの人件費も含めて半期で約100,000円、事務局費を捻出していただけないかと考えています。

中塚：DUOにかなり時間と労力を割いてもらっています。提案通りでよろしいですか？ ⇒承認
それでは、しっかり働いてください。

2. 高校生オブザーバーより

- ・知らないことが多かったのでよい機会でした。
- ・DUOリーグについて勉強不足だったので参加できて良かったです。
- ・いろいろな活動が行われていることが分かりました。
- ・いろいろな勉強になりました。ありがとうございます。
- ・DUOリーグのことがいろいろわかったのでこれからがんばりたいと思えます。
- ・高校3年生で、来年はサッカーの専門学校に進学することになったのですが、専門学校に行くにあたってここでの経験が生きてくるのでとても勉強になりました。
- ・パンフレットに前々所属まで書くことなど決定する場に参加できて良かったです。
- ・普段こういう場に高校生で参加できる機会はなかったので良い機会になりました。ありがとうございます。

議事録作成：岸卓巨

確認：中塚義実